

かざぐるま



～子供たちに おくる風～

市川市教育委員会 学校教育部 教育センター 令和7年 NO.3



10月8日(水)、指導課主催のみらいサポーター研修会が行われました。研修会では、市川市巡回指導職員 早川 淳子 氏による講演会と中学校ブロック毎での情報交換が行われました。今回は、早川氏にお話しいただいた講演会の内容についてお伝えいたします。



講師：早川 淳子氏

「こども理解の視点を広げる」

講演会では、校内教育支援センターの役割や子供たちがとる行動について理解するために、どのような視点を持ち、支援していくとよいのか、ということをお話ししていただきました。

校内教育支援センターの役割

☆安心できる場であること

- ・「学校に安心できる場所がある」ということを知ってもらう。
⇒大きな集団への恐怖の軽減
- ・「苦手なことを強要されない」という安心感。
- ・「できる」ことを行う。
⇒達成感、自己肯定感の回復 → 学級集団への安心感へ：社会自立の基礎

子供たちの行動には全て理由がある

☆ペン等を噛む、手遊びする、手の皮を剥く
→ (自己刺激行動)

☆よそ見 ☆集中できない など

- ・授業中、情報(聞く、見る、操作する等)を同時に処理することに苦手さがあると、作業の切り替えがうまくできず、修正できないズレから、
「どうせできない」「わからない」と感じる。
→ 「どうせできない」「わからない」世界にいるとき、自分にわかる刺激(自己刺激行動)等を入れ、その時間をやり過ごす。
→ 登校渋りにつながることも…

心のコップ



【落ち着いているとき】



【不安なとき】

心のコップは伸び縮みする。ちょっとしたことで不安になり、今までできていたことがコップからあふれてできなくなる。

大人の「心のコップ」にもあてはまりそうですね。



子供たちは先生が大好き

☆先生がお手本

- ・先生が「困った子」と思っていると、子供たちも「困った子」と認識する。
- ・先生の「どの子も好き、理解したい、大切にしたい」という姿が子供たちを育て、支援者を育て、集団を育てる。

☆「この人と少し頑張ってみたらわかった、できた、成長した」という子供たちの実感が

信頼関係の基本

この他にも、子供たちの感覚における、得意・不得意についてのお話等がありました。子供たちの感じている、見えている世界に一步近づいて、支援や手立てを考えていくことが大切ですね。